THE Coca-Cola FOUNDATION
公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団

2017事業活動報告書

Activity Report 2017

ごあいさつ

次世代を担う青少年の育成を目指して

公益財団法人
コカ・コーラ教育・環境財団
理事長
佐々木 康行

当財団は、2007年6月、「心豊かでたくましい人づくり」を理念とし、コカ・コーラが事業を日本で開始して50周年を迎えることを契機に、財団法人日本コカ・コーラボトラーズ育英会（1970年設立）とコカ・コーラ教育・環境財団（1994年設立）を統合し、多様な社会貢献活動を一元的に運営・推進できる母体として設立されました。5年目を迎えた2011年、「公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団」への移行申請を行い、9月27日付けにて内閣総理大臣より認定通知を受け、新たな一歩を踏み出しました。設立以来、次世代を担う青少年の育成と、彼らを取り巻く地域社会を支える人材の育成を目的として、教育分野での事業を中心に継続して実施しております。

1966年に開始した大学進学を支援する「奨学支援事業」においては、50年以上も継続しており、これまでに2,279名の卒業生を社会に送り出しております。

1994年に財団内に設立した環境教育・環境保全活動を表彰する「コカ・コーラ環境教育賞」は、以来24年間、2,000団体以上の応募を受け、日本の環境教育の推進に多大な貢献を果たしております。

2010年にグランドオープンし、当財団の象徴的な存在である宿泊型体験施設「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」も日本全国から累計で5万人以上の方々にご利用いただいております。

2011年3月11日に発生した東日本大震災によって甚大な被害を受けられました岩手県、宮城県、福島県の復興支援のため、ザ コカ・コーラ カンパニーをはじめとして、国内外のコカ・コーラシステム社員、および一般の方々からの寄付金をもとに、「コカ・コーラ 復興支援基金」を設立し、これまでに公立小・中学校への太陽光発電設備の設置助成、高校生・中学生を対象にした「米国・英国でのホームステイ研修プログラム」、高等学校と支援学校へのスクールバスの寄贈など多岐にわたる支援活動を展開してきました。2017年からは、岩手県、宮城県、福島県の高校生を対象に、国際社会で活躍し地域社会へ貢献する人材を育成するための「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始しました。

これに加えて、2016年4月14日以降に発生した「熊本地震」被災地域、熊本県、大分県の復興支援活動のため、全国コカ・コーラシステム会社とコカ・コーラシステム社員による寄付金を募り、2016年10月財団内に設立し、地域に根差した企業として、被災地域の課題を踏まえた支援活動を行うべく調査をし、青少年の生活復興に必要とされる教育施設および学習機会の提供などを実施してまいります。

私ども「コカ・コーラ教育・環境財団」は、社会の変化、価値の変化に即した事業を企画・提供することにより、これからも国際社会が求める青少年の育成と彼らを取り巻く地域社会を支える人材の育成に貢献してまいりたいと考えております。

＜ 理 念 ＞　心豊かでたくましい人づくり
(Healthy Active Life)

参加者累計29万人以上

環境教育
地域社会、さらには国際社会において
次世代リーダーとなる人材育成の支援を行っています。
- コカ・コーラ環境教育賞
  1994年から24年間の応募団体累計 **2,181団体**
- 雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス
  2010年から8年間の利用者累計 **約5万人**

スポーツ教育
全国の青少年を対象に、スポーツを通じた次世代の育成と指導者育成を行っています。
- コカ・コーラ出前かけっこ教室/出前体育の授業などで
  2009年から8年間の参加者累計 **7,363人**

奨学支援
次世代を担う青少年の育成を目的に、
高校生に大学生活への奨学支援を行っています。
- 1966年から51年間の卒業生累計 **2,279人**

復興支援
東日本大震災及び熊本地震の被災地支援を目的に、
コカ・コーラ復興支援基金を設立。さまざまな事業を行います。
- 太陽光発電・蓄電設備の設置助成　設置校累計 **55校**
- ヤングアメリカンズ東北ツアー協賛
  参加者累計 **3,100人以上**
- スクールバスの寄贈 **5台**
- 米国・英国でのホームステイ研修　参加者累計 **333人**

2017年度活動一覧

2017年度も当財団は日本全国で活動を展開

2017年

4月
- **1日**：奨学支援事業 2017年度奨学生51名を採用
- **17日**：「第24回コカ・コーラ環境教育賞」の募集開始

7月
- **7日**：「コカ・コーラファンデー」をコカ・コーラ環境ハウスにて北海道内の肢体不自由児者を対象に開催
- **8～9日**：福島県立あさか開成高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始
- **11日**：「第24回コカ・コーラ環境教育賞」の第一次選考会にてノミネート15団体を決定
- **16～17日**：岩手県立不来方高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始
- **18日**：奨学支援事業 各地の高等学校及び教育委員会に奨学生募集ポスター及び案内を送付

8月
- **18～20日**：「コカ・コーラ環境フォーラム」をコカ・コーラ環境ハウスにて開催。
  「第24回コカ・コーラ環境教育賞」の最終選考会にて最優秀賞及び優秀賞団体を決定、表彰式を実施

9月
- **1日**：奨学支援事業 奨学生の応募開始
- **12～13日**：福島県立南会津高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始
- **15～16日**　岩手県立釜石高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始

10月
- **3～4日**：東京学芸大学環境教育研究センター「水辺の学びデザインプロジェクト」研修合宿を
  コカ・コーラ環境ハウスを拠点に実施
- **14～15日**：宮城県立石巻高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始
- **16～17日**：宮城県立松島高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始
- **未まで**：奨学支援事業 第1次（書面）選考を実施

11月 中旬頃から：第2次（面接）選考を実施（支部ごとに適宜）。
奨学生予定者及び奨学生予備予定者を選定・決定（12月まで）

2018年

2月
- **14～15日**：東海大学「冬季環境保全演習」をコカ・コーラ環境ハウスを拠点に実施

い・ろ・は・す“地元の水”応援プロジェクト

「い・ろ・は・す」の売上の一部を当財団を通じて、
日本各地で水資源の保護活動を行っている
自治体や団体に寄付しています。

2016年 全国13団体の活動を支援。
2017年 全国22団体の活動を支援。

コカ·コーラ環境教育賞は、国内の環境教育の推進に貢献し続けています。

1994年の設立から、今年で25周年。コカ·コーラ環境教育賞は、環境ボランティア活動の助成·支援を通じて、これまで国内の環境教育推進に大きく貢献してきました。2017年度も81団体（活動表彰部門：45団体、次世代支援部門：36団体）の応募があり、その中から最優秀賞及び優秀賞を選出しました。

コカ·コーラ環境教育賞に24年間で合計2,181団体が参加しています。

第24回コカ·コーラ環境教育賞

主　催：公益財団法人コカ·コーラ教育·環境財団
協　力：読売新聞社
後　援：文部科学省、環境省

2つの部門で募集を実施

［活動表彰部門］
小·中学生とその指導者を対象として、地域社会に根ざした環境教育·環境保全活動の実績を顕彰します。

［次世代支援部門］
高校生、高専生及び大学生による環境保全·環境啓発に寄与する新しい企画を評価し、具現化のための支援を行います。

スケジュール

4月17日
募集開始
↓
7月11日
ノミネート15団体を決定
↓
8月19日·20日
最終選考会及び表彰式

受賞団体紹介

2017年度も日本全国からたくさんのご応募をいただきました

次世代支援部門

◎最優秀賞

岩手県立遠野緑峰高校 草花研究班

活動地域：岩手県遠野市
代 表 者：村上 利行 氏
主な活動：廃棄される地元産のホップの藁から和紙を開発

ホップの藁から自然に優しい和紙を独自の技術で開発。地域の教育機関や企業、大学などと連携しながら、地元小学校の卒業証書やランプシェードなどへ利用。ホップ和紙を通して地域の魅力を広め、ホップ農家の担い手不足を抑えるきっかけともしていく。

◎優秀賞

富山県立中央農業高等学校 エコペレット+ドジョウによる環境創造型水稲栽培法開発班
活 動 地 域：富山県富山市　代表者：水林 憲治 氏
主な活動内容：ドジョウを用いた環境創造型水稲栽培法の研究
「除草剤を一切使用しない」自然（生物）と農業の共存を実現し、高品質かつ安心安全な有機栽培米農法の開発を目指す。

緑のリサイクル·ソーシャル·エコ·プロジェクトチーム
活 動 地 域：徳島県阿南市　代表者：湯浅 正浩 氏
主な活動内容：地球温暖化防止に向け刈草を用いた土壌改良剤を開発
河川等の維持管理で発生する「刈草」から土壌改良剤を開発。刈草を活用した「緑のカーテン」作りと啓発普及などを展開。

佐賀県立唐津南高等学校 松露プロジェクトチーム
活 動 地 域：佐賀県唐津市　代表者：小池 由恵 氏
主な活動内容：国の特別名勝「虹の松原」の松露の保全活動を実施
「虹の松原」のクロマツと共生関係にある松露を復活させる研究を行い、その多様な生態を保全し次世代に遺す活動を展開。

沖縄県立辺土名高等学校 環境科
活 動 地 域：沖縄県国頭郡　代表者：東 竜一郎 氏
主な活動内容：世界自然遺産登録を目指す「やんばる」の保全活動
「やんばる」の赤土対策として植物の植付け、ヤンバルクイナ保護シェルターで外来植物の草刈りなどを行い、啓蒙活動も実施。

活動表彰部門

◎最優秀賞

草津市立渋川小学校

活動地域：滋賀県草津市
代 表 者：中村 大輔 氏
主な活動：郷土の良さを伝えるミュージアムを校舎内に開館

「ふるさとに誇りや愛着をもつこと」を目的に、生物だけでなく身近なくらしや文化、自然とのつながりを地域一体となり学び、校舎内に「渋川ESD（いいまち 渋川　だいすき）ミュージアム」を開館。郷土料理の素晴らしさなどを積極的に発信している。

◎優秀賞

札幌市立定山渓中学校
活 動 地 域：北海道札幌市　代表者：歌川 雅也 氏
主な活動内容：保安林内の裸地に木を植えて「森林教室」を体験
奥定山渓保安林内の裸地に木を植えるとともに、植生調査や森林保全などを体験。地域や森林管理局と連携し交流を行う。

新郷村立新郷中学校新郷守り隊
活 動 地 域：青森県三戸郡　代表者：戸嶋 一智 氏
主な活動内容：河川の水質調査や水生生物調査、清掃活動を実施
村内にある河川の7.5km、12地点で7項目におけるパックテストを行い、河川の改善に関する研究考察を行っている。

京都大原学院
活 動 地 域：京都府京都市　代表者：牧野 茂樹 氏
主な活動内容：国蝶オオムラサキの観察·飼育·放蝶などを実施
大原の里の保全を行いながら、オオムラサキの観察·飼育·放蝶活動などを学校·地域·行政と協力して展開。

和歌山県立向陽中学校 理科部
活 動 地 域：和歌山県和歌山市　代表者：樋上 睦芳 氏
主な活動内容：孟子不動谷の里山で生物の関わりを研究·発表
研究を行うとともに毎年2月に生物多様性フォーラムを開催。ユネスコ運動全国大会、全国トンボ·市民サミット等で成果を発表。

大宜味村立大宜味小学校
活 動 地 域：沖縄県国頭郡　代表者：伊是名 友也 氏
主な活動内容：世界自然遺産候補地「やんばる」でその特異性を学習
日本屈指の自然の宝庫「やんばる」の特異性の学習を行い、蝶と環境の関わりの研究と成果を村内外に発表をしている。

帯広市立帯広第八中学校 自然観察少年団
活 動 地 域：北海道帯広市　代表者：佐藤 千秋 氏
主な活動内容：地元の人に愛される森の観察と保全活動を実施
「大山緑地·若葉の森」の湧き水を利用したサケ稚魚の飼育と放流、水質調査や生き物の生育状況の観察などを実施。

木更津市立金田小学校
活 動 地 域：千葉県木更津市　代表者：信太 英俊 氏
主な活動内容：干潟での体験を生活科の授業でまとめて地域に発信
年3回の干潟での体験活動を行うとともに、「生活科·総合的な学習」の時間で調べ学習を行い、まとめたことを地域に発信。

太子町立中学校 社会科学部
活 動 地 域：大阪府南河内郡　代表者：吉村 元貴 氏
主な活動内容：校区の生息生物の保全研究や情報誌の発行
校区に生息するホタルやカワバタモロコなどの保全研究活動とともに、地元の良さを紹介する情報誌発行に取り組む。

奄美市立住用小学校
活 動 地 域：鹿児島県奄美市　代表者：新冨 美保子 氏
主な活動内容：奄美大島にしかいない魚の保護活動などを展開
ヤジ（リュウキュウアユ）の観察、校区内にある役勝川などの清掃活動や産卵場所の整地、保護活動に取り組んでいる。

雨煙別小学校 コカ·コーラ環境ハウス

北海道夕張郡栗山町の廃校を宿泊可能な施設として再生した「雨煙別小学校 コカ·コーラ環境ハウス」は、北海道夕張郡栗山町、地元のNPO法人雨煙別学校と公益財団法人コカ·コーラ教育·環境財団とが連携して運営し、教育の機会を提供して8年が経ちます。自然環境や農業環境を活かした体験型の環境教育プログラムを構築·展開し、全国の次世代を担う青少年の育成の場とすることを目指します。

次世代を見据えた取り組みは町の財産

栗山町長　椿原 紀昭氏

公益財団法人コカ·コーラ教育·環境財団のご支援をいただき、再生された「雨煙別小学校 コカ·コーラ環境ハウス」は、「ふるさとは栗山です。」を合言葉に町づくりを進めている栗山町の大きな財産です。栗山町の豊かな自然環境の中で環境体験や歴史、文化·スポーツ、都市部との交流など様々な活動の拠点として活用されております。この施設を拠点として企業·行政·NPO法人が連携し、それぞれの強みを活かすことにより次世代を担う青少年の育成と地域社会の成長を目指しています。

ふるさとに愛着と誇りを持てるような体験を

栗山町教育委員会教育長　南條 宏氏

栗山町の豊かな自然環境を活用した体験型の環境教育事業は、「雨煙別小学校 コカ·コーラ環境ハウス」を拠点とし、町内の小·中学校の授業の中で子どもたちがさまざまな体験を行っています。2017年度は栗山の子どもたち271名が「雨煙別小学校 コカ·コーラ環境ハウス」に宿泊し、2,878名が環境教育プログラムを活用いたしました。この体験を通して、次代を担う子どもたちが心豊かにたくましく成長するとともに、ふるさとに愛着と誇りを持つことにつながるものと考えています。

体験型の環境プログラムの拠点として、多くの企業、団体、学校が利用しています。

グランドオープン以来、
日本全国のみならず、世界中から5万人以上が来場しています。

活動紹介①

全肢連 コカ·コーラファンデー@北海道

2017年7月7日（金）

全肢連（一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会）を通じて、札幌や千歳などから約130名の会員とボランティアスタッフが参加。ビュッフェの昼食で親睦を深めました。また、参加者は天の川やアニメキャラクターなどを描き、オリジナルのうちわ作りを楽しみました。

オリエンテーション風景

間伐材を使っての「うちわ」作り

活動紹介②

コカ·コーラ環境フォーラム

2017年8月18日（金）～20日（日）

「第24回コカ·コーラ環境教育賞」受賞者と指導者、地元栗山町、札幌市内の一般参加者を対象に、北海道大学との連携で作られた水循環を体感できる環境体験プログラム「水の旅」や、栗山町の里山であるハサンベツでの自然体験プログラムなどを実施しました。

8月18日

オリエンテーション

参加者全員の自己紹介
バイキング形式の夕食会をで各団体の懇親をはかるとともに、各参加者に用意した名刺の交換を行い交流を深めた。

壁新聞の前で活動紹介
受賞者が事前に用意した壁新聞の前で活動紹介を行った。

8月19日

コカ·コーラ環境教育賞 最終選考会
開会あいさつ 当財団理事長　佐々木 康行
［北海道コカ·コーラボトリング（株）代表取締役社長］

受賞者によるプレゼンテーション
活動表彰部門ノミネート団体10団体、次世代支援部門ノミネート団体5団体によるプレゼンテーションと質疑応答（各5分）を実施。

水循環を体感できる環境体験プログラム「水の旅」を実施
食堂にて、北海道大学とのコラボレーションにより作られた環境体験プログラム「水の旅」でコカ·コーラの水に対する取り組み"Water Neutrality"を実感。

ハサンベツで自然体験プログラム（水生生物調査）を実施
「水の旅」を踏まえて、ハサンベツにて自然体験プログラム（水生生物調査）を実施。参加者は普段活動しているエリアの植生や生物との違いなどを学習。

バーベキュー形式による夕食懇親会
校庭にてバーベキューを実施。受賞者·関係者らが栗山町の恵みを堪能。

ボランティア大学生による環境プログラム「森の博士クイズ」を実施
大学生たちが、環境、コカ·コーラ環境ハウス、栗山町に関するクイズを考案して実施。参加者とともに知識と親睦を深めた。

8月20日

コカ·コーラ環境教育賞 表彰式
体育館にて、「第24回コカ·コーラ環境教育賞」各部門の最優秀賞が発表され、表彰盾を贈呈。

3日間のラップアップ
受賞者はフォーラムの3日間で体験したこと、他の団体の活動から学んだこと、そしてそれらの体験を地元に持ち帰ってどのように活かしていきたいかを発表。

大学ネットワーク

「環境マインドを持った次世代のリーダー」育成を目指し、コカ·コーラ環境ハウスを舞台に、これまで東京学芸大学、東海大学、東京大学、慶應義塾大学他のフィールドワークを中心とした環境·教育プログラム支援活動を実施しています。

東京学芸大学環境教育研究センター

プログラム名

水の学びデザインプロジェクト

2017年10月3～4日

東京学芸大学の学生が、「水の学びデザインプロジェクト」研修合宿を実施。ハサンベツ里山にて水資源保護をテーマに、夕張川や湿原の再生、魚道作りなどの体験学習を行いました。

ハサンベツ里山での水生生物調査

湿原の再生と生物調査

「水辺の環境づくり」を学習

東海大学

プログラム名

冬季環境保全演習

2018年2月14～15日

水資源保護·水の循環について、東海大学の学生が環境保全演習に参加。北海道コカ·コーラボトリング札幌工場の見学、コカ·コーラ環境ハウスでのワークショップ、農業体験などを行いました。

湧水の観察

「かまくら」作りを体験

農家の人との対話調査

大学生がボランティアスタッフとして運営をサポート

コカ·コーラ環境教育賞

大学生14名が、表彰式の司会や進行のアシストまで幅広くサポートを行いました。

コカ·コーラ環境フォーラム

環境体験プログラムやクイズ形式のプログラムなどで司会進行をサポートしました。

青少年に対する教育支援

コカ·コーラの奨学支援事業は、1966年に開始しました。コカ·コーラが日本で事業を開始して11年目にあたり、当時、日本国内では大学進学率が平均して25%にも満たない時代でした。1970年からは全国のボトラー各社と日本コカ·コーラが共同で、毎年全国から推薦された成績優秀な高校生に大学在学期間中、返済及び将来の就職等についても義務がない奨学金を授与しています。この事業は向上心あふれる学生に、教育の機会を提供するものとして50年間以上継続して実施しています。
今後も国際社会が求める青少年の育成、また地域社会を支える人材の育成に貢献することを目的として、人物·学力ともに優れ、かつ向上心に燃えながら経済的な理由により大学への進学が困難な事情にある高校生の進学を支援してまいります。

51年間で合計2,279名の卒業生を支援しています。

2017年4月に奨学生51名を採用し、本人及び入学する大学長、出身高等学校長へ決定を通知しました。次年度の募集は、告知ポスター等にて、財団支部を通じて行っています。広報活動として「鳳鳴」を制作し、財団役員、奨学生、卒業生、各支部へ配布しました。

奨学生の声

地域に貢献できるよう充実した4年間を送りたい。

本部採用：金城 美起（愛知東邦大学 経営学）

私は両親ともに亡くしていて、小学校4年生から高校3年生まで里親に育ててもらいました。高校3年生の時、愛知県の大学に進学したいと考えていた時に生活費や学費のことで誰のサポートもないままでは無理だと思い、進学を諦めようとしていました。その時にクラスに掲示されたコカ·コーラの奨学生の募集要項を見てすぐさま応募しました。そして無事4月に大学に入学することができました。本当にありがとうございます。私の将来の夢は、地域の特産物を使った商品開発で地域に貢献できるような人材になることです。そのためにも今の大学で学業に専念して、応援してくれている人々の期待を裏切らないよう、充実した4年間の学生生活を送りたいと思います。

沖縄の子どもたちにもっと英語の楽しさを。

支部採用：上原 純一（琉球大学 国際地域創造学）

私は将来、英語教師となって、沖縄の子どもたちに英語を学ぶ楽しさを広めていきたいと思っています。そのために大学では英語教育の現状を学び、子どもたちの興味を引くことができ、かつ社会で活用できる英語の授業について研究していきたいと思います。今年の春からは支援のおかげで、経済面の心配も減り、勉学に集中することができます。また、サークル活動なども、積極的に参加し、人的ネットワークも広げることができます。私自身、奨学生に選んでもらった人間として、夢に向かって充実した学生生活を送り、未来の沖縄に貢献できる人間になりたいと思います。また、多くの方々に支えられているということを忘れず、学生生活を送りたいと思います。

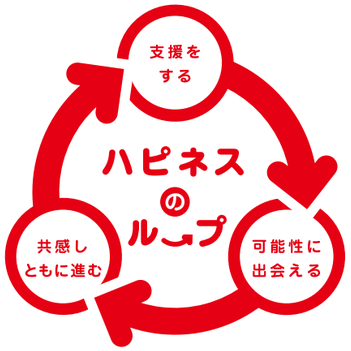
図書館司書として実現したい夢のために。

支部採用：任田 くるみ（静岡大学 情報学）

初めての一人暮らしを通して生活スキルを磨き、勉学は基礎を怠ることなく地道に励むことを心がけたいと思っています。これまでお世話になってきた親に感謝し、図書館司書として実現したい夢のためにも、4年間の大学生活を大切にしていきたいです。

コカ·コーラ復興支援基金事業活動

つなげよう、ハピネス



「コカ·コーラ復興支援基金」は、東日本大震災によって被害を受けられた被災地の復興支援を目的に、2011年3月24日に当財団内に設立されました。それから今日まで「つなげよう、ハピネス」をテーマに、子どもたちの生活復興に必要とされる教育施設をはじめ、さまざまな復興支援事業を行っています。2017年度からは新たに、高校生を対象にした「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を実施しています。

これまでの主な復興支援活動(2011年～2016年) 約21,000人以上が参加

太陽光発電·蓄電設備の設置助成

岩手·宮城·福島県の公立小·中学校を対象に実施。同時に、子どもたちへクリーンエネルギーを通じた環境教育と、地域の緊急避難場所への防災対応機能の整備を支援しました。

米国·英国でのホームステイ研修

岩手·宮城·福島県の高校生·中学生を対象に、グローバルな視野を持つ人材の育成及び教育支援の一環として、海外でのホームステイ研修プログラムを提供しました。

その他、スクールバスの寄贈、ヤングアメリカンズ東北ツアー支援などを実施。

2017年度より「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」開始。地元の魅力を海外の人々に発信できる人材を育成

[後 援] 岩手県、岩手県教育委員会／宮城県、宮城県教育委員会／福島県、福島県教育委員会

2017年度から3年間にわたり、岩手·宮城·福島県の高校生(30校1,000名以上)に、地方自治体や教育委員会、地元のNPOや大学、企業といった協働パートナーとの連携によりプログラムを実施します。
第1期である2017年度は、6校294名の高校生を対象とし、英語や観光ガイドに関する学習を強化するとともに、外国人スタッフや留学生のサポートを受けながらコミュニケーションスキルの向上を目指すプログラムを実施しました。

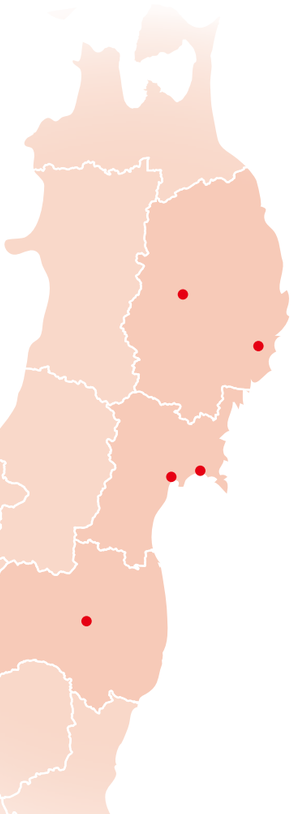
プログラム概要

1 ファシリテーターと留学生による体験型プログラム(2日間)
- ●5～6名のグループに分かれてプログラムを実施
- ●英語を用いたコミュニケーションと課題への取り組みを発表
- ●アンケートによるフィードバック

2 オリジナル教材による自己学習プログラム(3～6ヵ月間)
- ●継続して自己研鑽するためのツールとして学習教材を提供
- ●自身や学校、地元、県内の観光地などを英語で紹介できるように自己学習
- ●主催者側にて課題を採点し、フィードバック
- ●実地研修を行う一定期間前にクラスで準備授業を実施(学校主導)

3 現地近郊観光地、もしくは東京での英語観光ガイド実地研修(1日)
- ●体験型プログラムで、自己学習の成果を発揮する場を提供

プログラム修了証を授与



●参加者の声

英語を母国語としない国々の講師が多数おられたことで、生徒にとっては、英語がグローバルなものと再認識するきっかけになったと思う。普段外国人と接する機会の少ない生徒たちにとって、少人数で外国人と英語オンリーで対応する機会は貴重な体験になった。

英語を勉強するのが好きなので楽しみにしていました。カタコトでしたが、チームリーダーの人に言いたいことが伝わったり、聞き取ることもできたのでとても良い時間になりました。

留学生の方々のキャリアプランを聞いて、将来には進める道が様々にあることがわかり、世界が広がりました。

実施校6校の活動紹介

岩手

岩手県立不来方高等学校
実 施 時 期：2017年7月～2018年2月
対 象 生 徒：外国語学系1年生40名
外国人スタッフ：ファシリテーター1名·留学生5名

岩手県立釜石高等学校
実 施 時 期：2017年9月～2018年4月
対 象 生 徒：1年生41名
外国人スタッフ：ファシリテーター1名·留学生4名

宮城

宮城県立石巻高等学校
実 施 時 期：2017年10月～2018年3月
対 象 生 徒：1～2年生50名(1年14名·2年36名)
外国人スタッフ：ファシリテーター1名·留学生6名

宮城県立松島高等学校
実 施 時 期：2017年10月～2018年3月
対 象 生 徒：観光科2年生77名
外国人スタッフ：ファシリテーター1名·留学生10名

福島

福島県立あさか開成高等学校
実 施 時 期：2017年7月～2018年2月
対 象 生 徒：1～3年生36名
(1年10名·2年16名·3年10名)
外国人スタッフ：ファシリテーター1名·留学生5名

福島県立南会津高等学校
実 施 時 期：2017年9月～2018年3月
対 象 生 徒：1年生50名
外国人スタッフ：ファシリテーター1名·留学生6名

財　団　概　要

名　　称	公益財団法人コカ･コーラ教育･環境財団
英 字 名 称	The Coca-Cola Educational & Environmental Foundation
設　　立	2007年6月25日
公益財団法人移行日	2011年9月27日
所 轄 行 政 庁	内閣府
設 立 代 表	縄 英明
所 在 地	東京都港区六本木6-2-31
役 員 一 覧	理事長　佐々木 康行
	常務理事　北島 伸一郎
	理　事　青木 庸三
	理　事　上野 密
	理　事　古賀 靖教
	理　事　小澤 紀美子
	理　事　小松﨑 和夫
	理　事　菅野 耕自
	理　事　高梨 圭二
	理　事　馬場 久萬男
	理　事　谷村 邦久
	監　事　寺尾 仁之
	監　事　山田 洋一
	評議員　池田 延行
	評議員　稲垣 晴彦
	評議員　岡本 繁樹
	評議員　高橋 俊夫
	評議員　並木 茂夫
	評議員　原 幹弘
	評議員　柊 巌
	評議員　堀部 定男
	評議員　宮林 茂幸
	評議員　望月 千世子
	評議員　安井 至
	評議員　米村 洋一

（2018年5月27日現在）

https://www.cocacola-zaidan.jp/

この事業活動報告書では、公益財団法人コカ･コーラ教育･環境財団が行った、2017年4月～2018年3月までの活動内容を記載しています。

2017事業報告書は下記URLからもご覧いただけます。
https://www.cocacola-zaidan.jp/summary/pdf/ActivityReport2017.pdf

2018.5.27